

VII-31 中学生を対象とした防災教育の現状と有効的手法

徳島大学環境防災研究センター

正会員○黒崎ひろみ

(株) 銭高組

山本 博之

徳島市社会福祉協議会

木村 泰之

徳島大学環境防災研究センター

正会員 中野 晋

1. 研究の背景および目的

2005年1月1日の時点で、東南海地震、南海地震は30年後にそれぞれ50%、60%程度の高い確率で発生すると予測されている。このため、地震による大災害が懸念される地区で防災対策が急がれている。

防災対策には、ハード対策とソフト対策があり、より低予算で行えるソフト対策の重要性が指摘され、自主防災活動の活性化などの対策が講じられている。その中でも次世代の地域防災の核となる子どもたちへの防災教育は必要不可欠となっている。筆者らは、平成17年度に徳島市の津田中学校、城西中学校で行われた防災教育に協力した。その中でアンケート調査を行い、防災教育実施に伴う生徒の防災に対する知識・意識の変化について検討した。

2. 防災教育の種類と手法

防災教育の種類は、大きく分けて2つあり、「仕込み型」と「引出し型」に分けられる。仕込み型学習とは、生徒に主体性がなく、受動的に学習するものを指す。手法としては、講義や予告済みの避難訓練、パンフレットやマニュアルを用いた学習などがこれに該当する。知識を習得するのには効率の良い方法である。一方引出し型学習とは、生徒に主体性があり、能動的に学習するものを指す。手法としては、防災マップ作りや抜き打ちの避難訓練、DIG（災害図上訓練）などがこれに該当する。生徒は自ら考えて学習することを求められるため、興味・関心を引くためには適した学習方法である。

3. 実施例

平成17年度、徳島市の津田中学校（1年生；31人）、城西中学校（3年生；71人）において総合学習の時間を用い、前者は6月～2月まで計14日程度、後者は6月～9月まで計8日程度、防災学習が行われた。学習の流れは、「知る」⇒「考える」⇒「調べる」⇒「まとめる」⇒「広める」に沿って行われる。なお、両校ともほぼ同じカリキュラムであった。表-1は具体的な学習の流れを示したものであり、写真-1はW.S.の学習風景である。ここで城西中学校は全体に時間数が少なく、「調べる」の時間が取れなかったため、特に「引出し型」の学習が少なかった。

表-1 学習の流れ

	知る	考える	調べる	まとめる	広める
津田	講義&ゲーム	W.S.*	自由研究	ミニコミ誌	発表会
城西	講義&ゲーム	W.S.*	×	ミニコミ誌	校内HP

*W.S.: ワークショップ

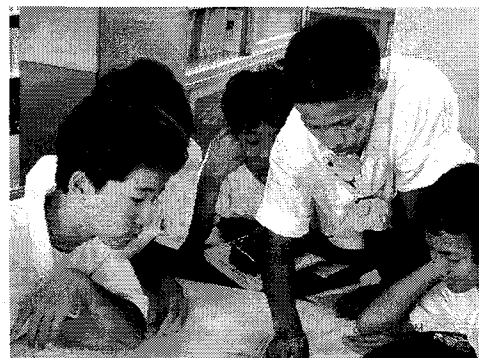


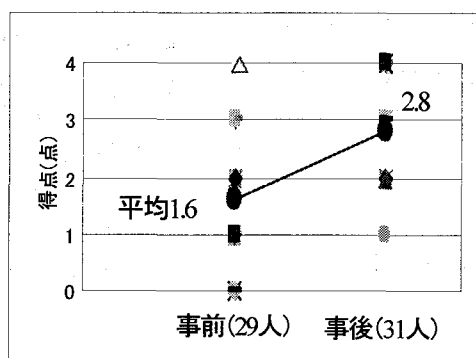
写真-1 ポストイットを張り意見交換をする生徒たち（城西）

4. アンケート内容および結果

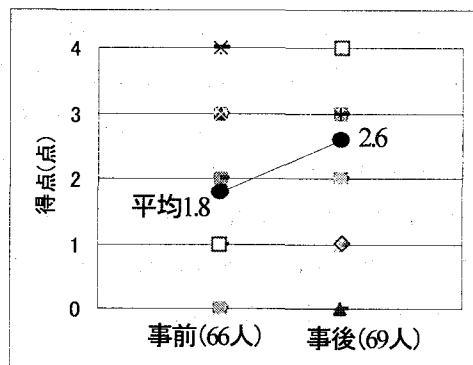
アンケートは、1.「災害一般について」、2.「南海地震について」、3.「あなたが住んでいる町について」、4.「防災組織について」、5.「防災活動への関心度」、6.「防災ボランティア活動について」の以上6つの大区分、全20問で構成されている。このうち6.を省いた5区分について、回答に得

点を与え、数量化する。ここではStudentの t 検定⁷⁾を用い、有意水準は0.05とした。また本文では、上記の設問2.「南海地震について」、5.「防災活動への関心度」に焦点を絞った検討結果をまとめる。

図-1, 2はそれぞれ、2.「南海地震について」および5.「防災活動への関心度」に対する事前・事後の変化をグラフ化し、両校で比較したものである。図-1より、両校とも防災教育を受けたことで知識量の増分が見られる。一方図-2では、両校とも防災活動への関心度が低下している。様々な見方ができるが、筆者らはこの現象を次のように考察した；防災教育の事前では生徒らに防災の知識が少なかったため、未知分野への興味から防災への関心が保たれていたが、教育を受けるにつれて知識量が増し、相対的に関心度が低まった。さて両校の結果を詳細に比較すると、明らかに津田中学校の方が防災活動への関心度の低下が少ない。これは津田中学校では日程に余裕があり、「引出し型」の学習により多くの時間を費やすことができたためと考えられる。

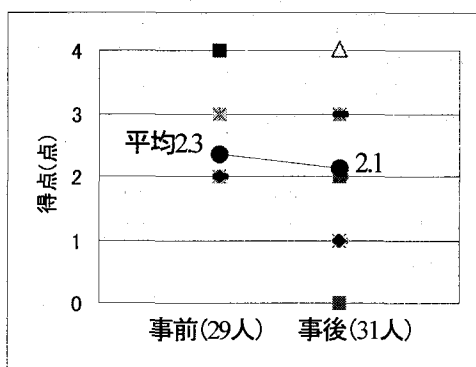


(1) 津田中学校

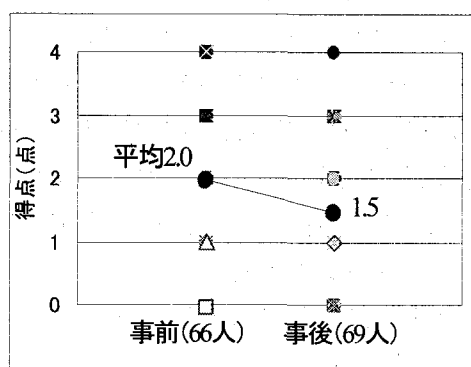


(2) 城西中学校

図-1 南海地震に対する知識の変化



(1) 津田中学校



(2) 城西中学校

図-2 防災活動への関心度の変化

5. 結論

津田中学校、城西中学校ではほぼ同内容のカリキュラムであったにもかかわらず、両校で防災活動への関心度において大きな差が見られた。これは総時間数の違いおよび「引出し型」の学習にかけた時間が違ったためである。防災教育はその時間に見合ったカリキュラムを組み、生徒の興味や関心を逃さないような学習方法をとることが重要と言える。

参考文献

- 1) 内田治；すぐわかる EXCEL による統計解析〔第2版〕．2-62p. 2000.9